

研修報告書 No.19

所 属： 県外病院 初期臨床研修医

研修先： 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院

大川村小松診療所、高知市土佐山へき地診療所

2019年12月9日から2020年1月5日までの1ヶ月間、私は高知県の本山町立国保嶺北中央病院、大川村小松診療所、高知市土佐山へき地診療所において研修をさせていただきましたので、これをご報告いたします。

私はこれまでに高知県を訪れたことがなかったので、東京からの往路では、初めての土地に行くことへの期待で胸を膨らませていました。そして、嶺北という地域はどのような土地でどのような診療が行われているかを実際に見て学ぶことができることを非常に楽しみに思い、1ヶ月という非常に短い期間ですが可能な限り多くのことを吸収したいという目標を立てました。

本研修の主な研修先である嶺北中央病院がある本山町は、大豊町、土佐町、大川村と合わせた嶺北地域にあり、町土の約90%が急傾斜の山林で冬季は積雪もある寒気が厳しい土地です。人口は1965年には7343人でしたが2015年時点で3573人と減少を続け、さらに高齢者世帯も増加、高齢化率は約45%であり10年後の日本の姿と言われているそうです。

そのような嶺北地域で、嶺北中央病院は唯一の一般病床をもつ救急告示公立病院で、約13,000人の診療圏を抱えています。常勤医師は総合内科医師5人と外科医師1人で、一般病床と療養病床を合わせて計99床の病棟を診る一方で365日24時間救急対応を行なっている嶺北地域にとって欠かせない医療機関です。

今回、嶺北地域での研修を通して印象的だったことは、人口の高齢化・高齢者の独居・医療資源・医療アクセス・医師の偏在化についてです。

入院患者の診察、外来診療、診療所での診察、福祉センターでの研修等を通して、東京に比べ明らかに高齢者が多いと感じました。一つ驚いたことは、農作業に従事している影響なのか認知機能の低下や運動機能の低下の程度が年齢の割に低いように感じたことです。ただ、そのような比較的元気な方でも独居で車を所有していない方もいて、病院に定期通院することだけでも非常に大変な様子の方もいました。診療所は、少しでも医療アクセスを良くし、そのような方の健康を守るためにあり、地域において非常に重要な存在だと感じました。しかし診療所にある医療資源には限りがあり、血液検査の結果は当日に出ませんし、画像検査はレントゲンのみという診療所もありました。現在私が研修している病院では、すぐに血液検査の結果は出ますし、夜間でもCT、MRI等不自由なく検査を行うことができます。医療資源に制限のある場所で医療を行うのは初めての経験だったので、いかに普段の環境が恵まれているか、そして検査が限られている状況で患者に最善の医療を提供するために検査

に頼らない部分での診療技術をもっと磨かないといけないと反省しました。

嶺北中央病院はその点では嶺北地域では医療資源の豊富な病院ではありますが、医師は少数で画像検査を行なっても画像の読影レポートを作成するような放射線科医は在籍していません。その場で検査依頼医が読影し、後日週1回のカンファレンスで複数の医師で確認するという形です。これに関しても放射線科医に常にコンサルトできる状況で働いている自分は贅沢な環境だと感じ、検査を読み解く力もまだまだ向上させないといけないと強く思いました。

総括すると、10年後の日本の姿と言われている地域で研修をさせていただいたことは今後の医師人生においてどのような力を向上させていく必要があるのかを知るきっかけとなりました。自分の医師としての未熟さを改めて痛感し、日本の医療の課題を知る機会を得ることができ、非常に有意義な研修となりました。

最後になりますが、このような充実した研修を送ることができたのは、佐野院長先生はじめ嶺北中央病院の先生方、医療スタッフの方々、土佐山へき地診療所の松下先生はじめスタッフの方々、そしてコーディネートしてくださった高知医療再生機構の方々、全ての関係者のおかげです。誠にありがとうございました。

以上、研修報告とさせていただきます。